

製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容によって正しく取り付けてください。取付後は、お客様にご使用方法を十分ご説明ください。

安全のため必ずお守りください

(取付けの前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。)

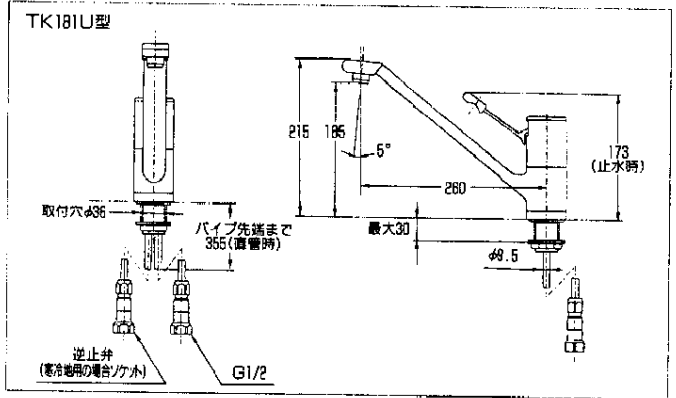
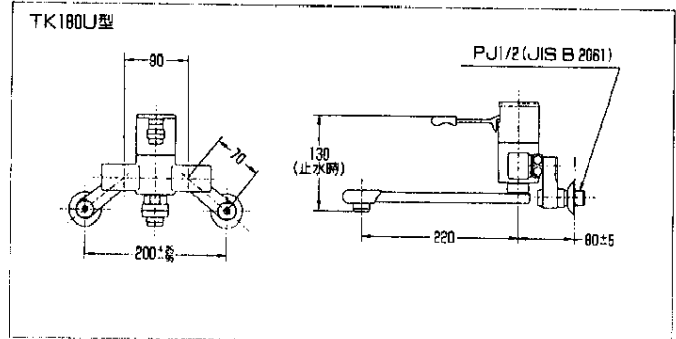
●この説明書では機器を安全に正しく取り付けいただくために、必ずお守りいただくことを、**注意**の表示によってお知らせしています。

注意 この表示の欄の内容を無視して誤った取付けをすると、傷害または、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

注意

1. 湯水を逆に配管しないでください。
水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。
2. 凍結が予想される際は、水を抜いておいてください。
凍結破壊で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。(寒冷地用)

完成図



*品番によっては、図と製品の形状が一部異なることがあります。

使用条件

1. 使用水圧

① 瞬間型給湯機と組み合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水圧(下表参照)
最高圧力………0.75MPa

器具入口部における最低必要水圧(MPa)

給湯機タイプと号数		最低必要水圧
能力手動切替タイプ	12号	A+0.31
TOTO	10号	0.09
カスタム	16号	0.07
制御方式	20号	0.08
TOTO	16号	0.06
トリコン	20号	
制御方式	24号	0.05
(トリコン)	アクティ	
制御方式	スーパーアクティ	0.06
制御方式	32号	
TOTOハイトリコン	21号	0.05
制御方式	24号	
TOTO	16号	0.07
コマンド	24号	0.06
TOTO	21号	0.05
ハイコマンド	24号	

(設定条件)

- レバーハンドルは全開
- 吐水温度：38℃
- 給湯配管長さ：5m
- 給湯機が着火する下限の圧力とする。
- 水温の高い(25℃)夏期に着火させることを想定。
- 能力手動切替タイプの出湯温度は最高温度に設定。
- 比例制御タイプの出湯温度：60℃

注) 表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。

(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

※能力手動切替タイプで水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。

② 貯湯式湯水器と組み合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力………0.05MPa
最高圧力………0.75MPa

③ 給水・給湯圧力はできるだけ同圧になるようにしてください。

2. 給湯に蒸気を使用しないでください。

3. 湯・水を逆配管しないでください。

なお給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

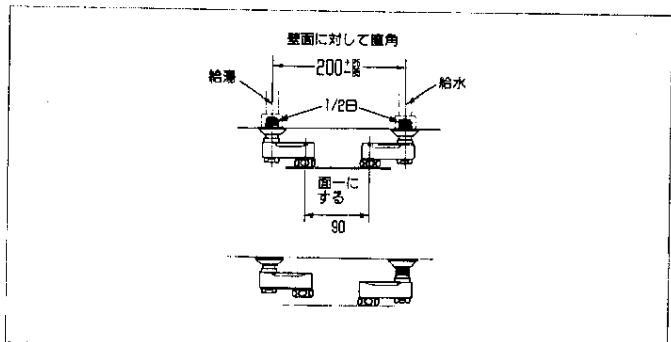
4. 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途止水栓をご用意ください。(TK180U型)

器具の取付け

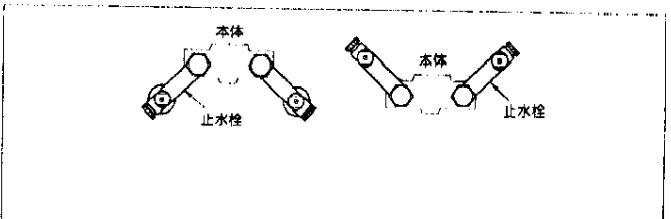
1. 給湯管内の清掃

器具を取り付ける前に必ず給水管内のこみ、砂などを完全に洗い流してください。

2. 止水栓の取付け (TK180U型の場合)

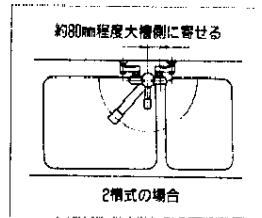


※寒冷地用TK180U型の場合は止水栓の取付け位置が本体よりも上になると、水抜きができませんので必ず下になるように取り付けてください。



※取付位置

- 混合栓は流しが1槽式の場合は槽の中央に取り付けてください。
- 2槽式の場合は右図のように2槽の中央より約80mm大槽側に寄せるるとより使いやすくなります。



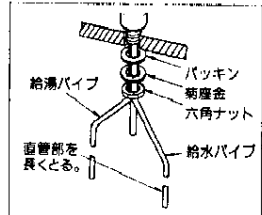
3. 混合栓本体の取付け

(1) TK180U型 (左下図参照)

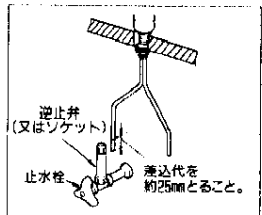
混合栓本体を止水栓に押し付け、袋ナットで取り付けてください。

(2) TK181U型

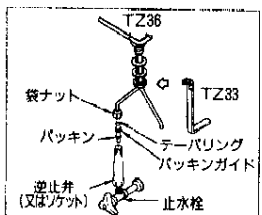
①混合栓本体が正面を向くように仮固定し、給水・給湯パイプを止水栓の取出位置に合うように付け広げてください。このとき、できるだけ直管部が長くなるようにしてください。また、給水・給湯パイプがつかないように注意してください。



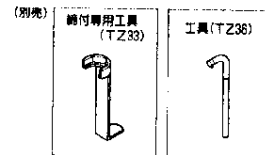
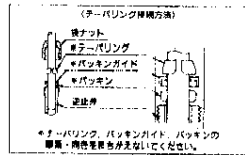
②逆止弁 (寒冷地用の場合はソケット) を止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要長さをあたり、切断してください。このとき、パイプの差込代は約25mm確保してください。



③給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、パッキンガイド、パッキンの順に入れて、逆止弁 (又はソケット) を差し込んでください。次に逆止弁 (又はソケット) を止水栓にねじ込み、混合栓本体を本固定してください。固定には別売の締付専用工具 (TZ33、TZ36) を利用して確実に締め付けてください。



※混合栓本体を固定するときは、取付穴周囲の汚れを取り、セパレート紙をはがしてください。



④最後に給水・給湯パイプを逆止弁に押し付け、袋ナットを手締後1回転以上締め付けてください。

(注) 給水・給湯パイプの抜け防止のため、給水・給湯配管は動かないよう確実に固定してください。

寒冷地用水抜方法

寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作と合わせて次の要領で水抜きしておいてください。またお客様にも水抜方法をご説明ください。

(水抜手順)

①レバーハンドルを中央位置 (湯側・水側の中間) で上げる。

②水抜コックを開く。

※水抜き後は必ず水抜コックを強く締めてください。

お手入れ

器具がいつでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご説明ください。

1. 水栓の表面や樹脂部を傷つける以下のものは絶対に使用しないでください。

- ・TOTO水あかクリーナー以外の酸性洗剤、塩素系漂白剤
- ・シンナー、ベンジンなどの溶剤
- ・TOTO水あかクリーナー以外のクレンザー、磨き粉など粗い粒子を含んだ洗剤
- ・ナイロンたわし、ブラシなど

もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いしてください。

2. 水栓の表面や樹脂部に付着した水あかなどの汚れ落としにTOTO水あかクリーナーのご使用をお勧めします。

TOTO水あかクリーナーは水栓に傷をつけずに汚れを効果的に除去します。

お求めはお近くのTOTOショールームもしくはTOTOパーツセンターにお尋ねください。

3. 軽い汚れの場合は水またはぬるま湯に濡した布をよく絞って、汚れをふき取ってください。ひどい汚れの場合は、適量にうすめた食器用中性洗剤を含ませた布で汚れをふき取った後、水洗いし、からぶきしてください。

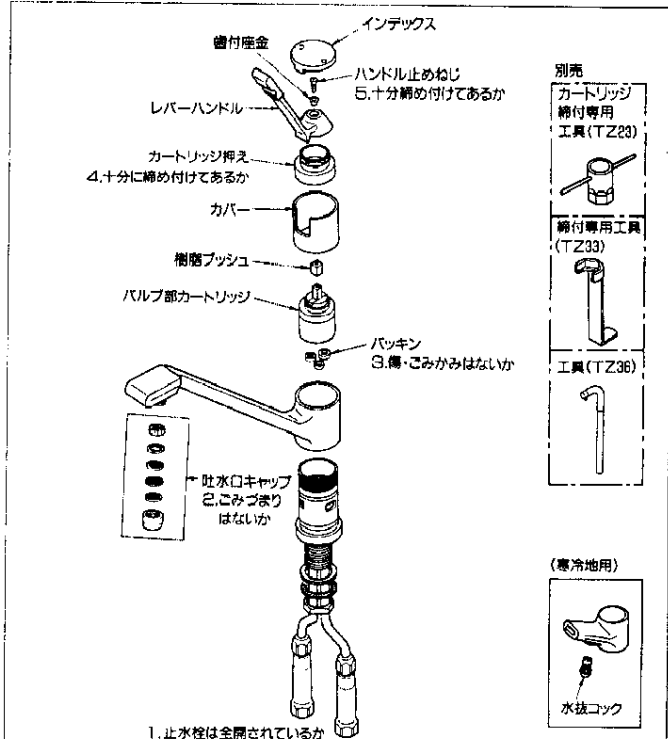
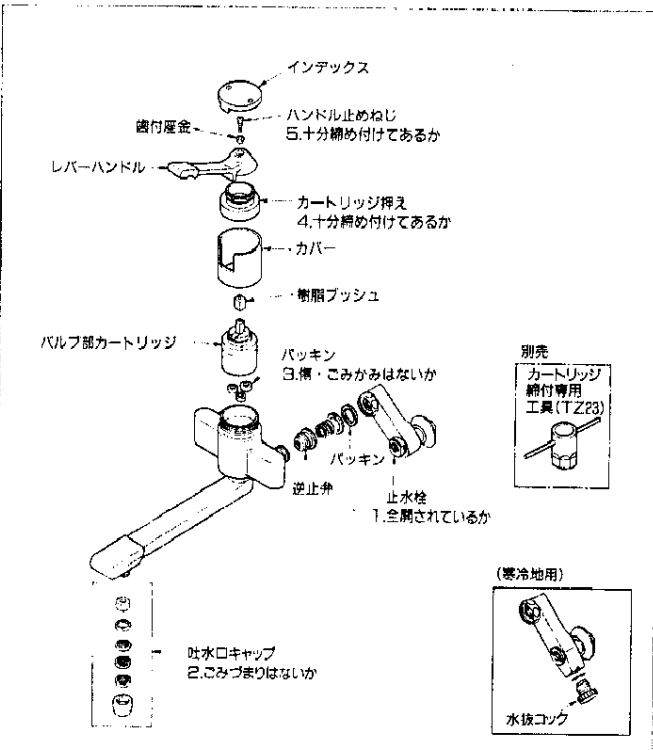
分解と点検

取付後、万一故障した際は、次の要領で分解及び点検を行ってください。

ご注意

バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを組立調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

現象	点検箇所
吐水量が少ない	1・2
水が止まらない ハンドル部から水が漏れる	3・4
吐水温度不良	1・2
ハンドルがガタつく	5



※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。
 手締し、きかぬ場合は、TOTOショールームまたはTOTOパーツセンターにお尋ねください。